

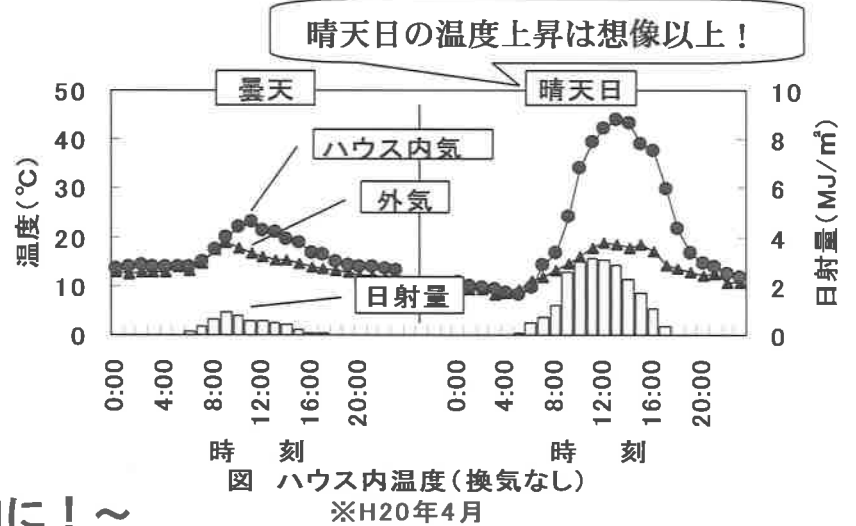
### コシヒカリの田植えは、5月6日頃から行いましょう！

- 育苗ハウスの温度管理と換気に注意し、軟弱徒長苗を防止しましょう。
- 田植時の基肥量は、土壌条件に応じた施肥基準を遵守しましょう。
- 代かきはなるべく田植時期に近づけ、除草剤は遅れずに散布しましょう。

#### 1. 硬化期の育苗管理

～温度管理と換気を徹底し、たくましい苗を！～

- 日中のハウス内温度は20～25℃を目安にする。  
(特に、晴天日は早めに換気を行う)
- かん水は、床土の乾きに応じた確に行う。  
(かん水過多の場合、生育を阻害するので注意)
- 田植え7～10日前からは、昼夜ともハウスを開け、苗を外気に慣らす。
- 強風の際はハウスの風下側を開ける等、苗に直接風を当てないように注意する。



#### 2. 本田準備

～代かきから田植えまでの期間は5日以内に！～

- 出来るだけ丁寧な整地により、田面の均平に努める。稲の生育に最後まで影響します。
- ヒエ等の雑草の発生を抑えるため、代かきは田植予定日の3～5日前に実施する。
- 代かきは少なめの水で行い、稲わら等の埋没に努める。濁り水は排水路へ流さない。

#### 3. 田植えと水管理

～活着・初期生育は水温上昇が秘訣。適正な水管理で分けつ促進を！～

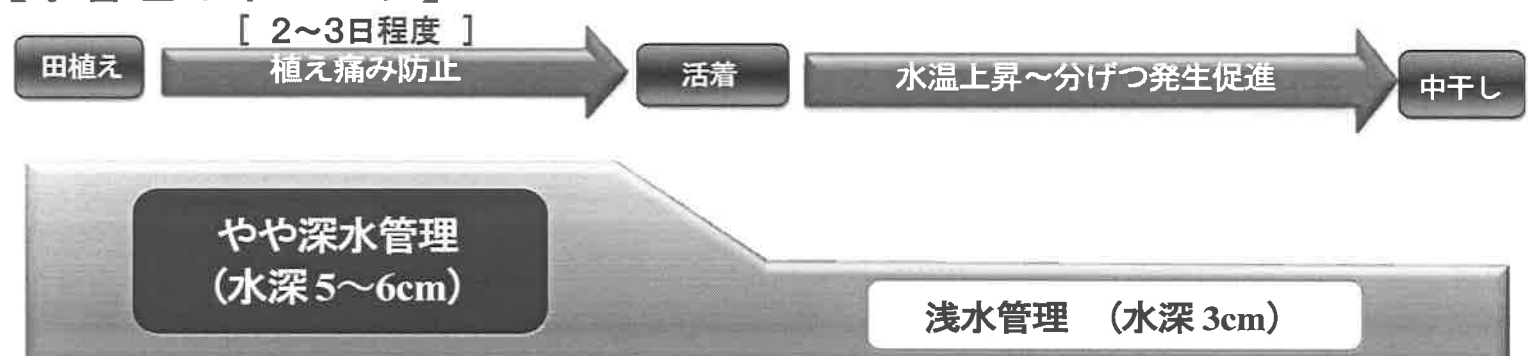
- 栽植密度は、70株/坪、1株の植付本数は3～4本、植付深さ3cm(苗の第一葉が見える程度)とする。
- 基肥量は、収量と品質を確保するため、品種や土壌条件、前作等に応じた施肥基準を遵守する。
- 早期追肥は、田植後1週間目に施用する(全層体系のみ)。

##### 【施肥の目安】

品種	施肥体系	肥料名	基肥量(10a当たり)	早期追肥量(10a当たり) (BB側条基肥206)
コシヒカリ	側条施肥	BB側条基肥206	25～30kg	—
	全層施肥		30～35kg	7kg
	一発肥料	LPss コシカリ2号	27～32kg	—
てんたかく	側条施肥	BB側条基肥206	35～40kg	—
	全層施肥		40～45kg	10kg
	一発肥料	LPs 早生専用	35～40kg	—

- 活着までは5～6cm程度のやや深水で管理する。
- 活着後は3cm程度の浅水とし、早朝入水・昼間止水で田水温を高める。

##### 【水管理のイメージ】



## 4. 病害虫防除



- 葉いもちと初期害虫の予防のため、苗箱施薬剤を使用する。
- 散布後は軽く散水し、薬剤を床土に落ち着かせる。
- 育苗後、ハウス跡で野菜栽培をする場合は、苗箱施薬剤をハウスの外で散布する。

### 【苗箱施薬】

注) J Aの苗には、苗箱施薬剤が散布されています。

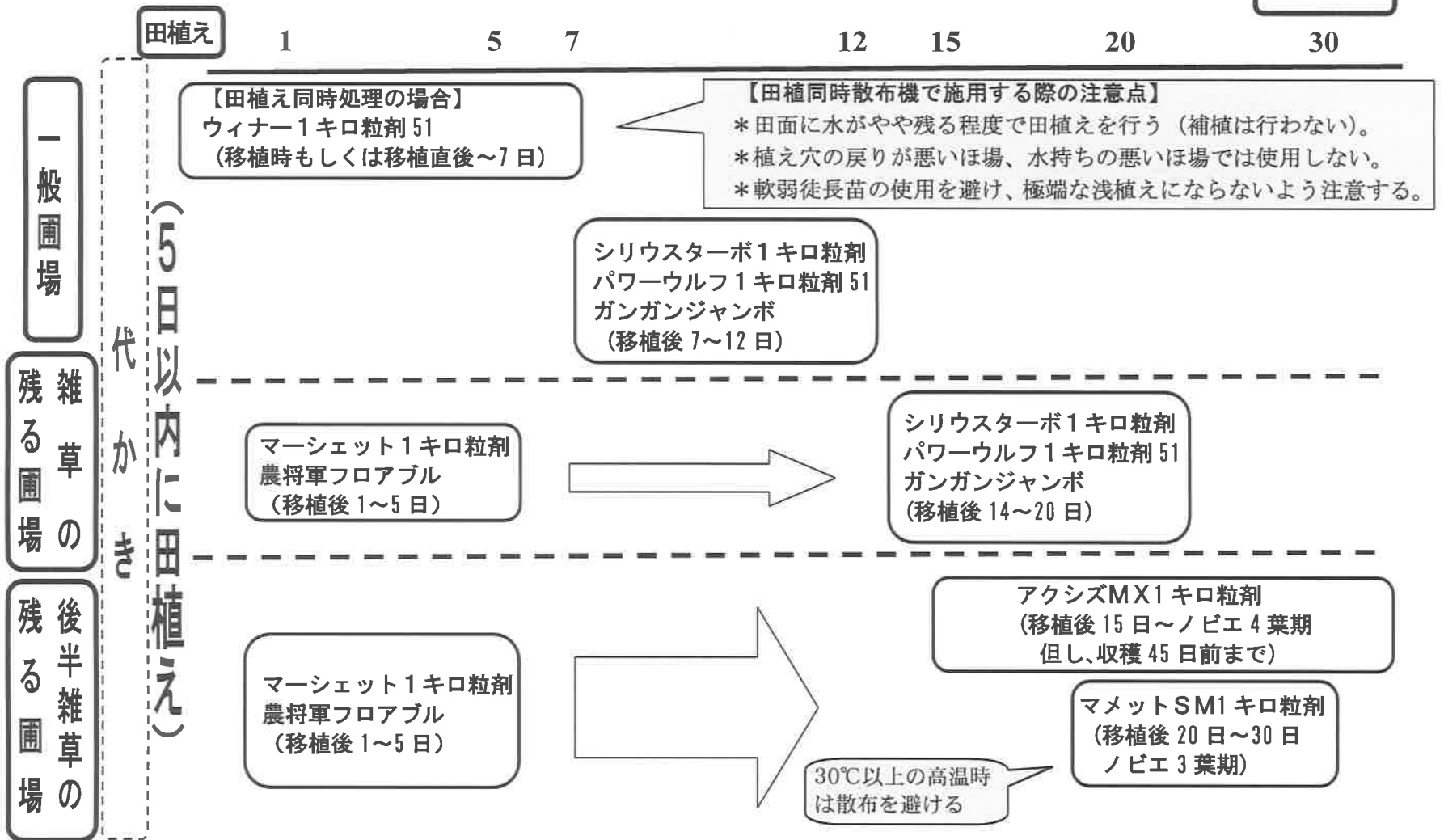
薬剤名	対象病害虫	使用量(1箱当たり)	使用時期
ルーチンアドスピノ箱粒剤	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ(イネアオムシ)	50g	播種時(覆土前)～移植当日

## 5. 除草剤の散布

～使用基準を遵守し、ムラなく均一に散布を！～

- 除草剤を散布する前に、畦畔や排水溝の状態を確認し、漏水を防ぎましょう。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、散布後7日間は「止水管理」とし、落水やかけ流しをしない。
- 特に、散布後5日間は湛水状態を保ってください。
- 気温が高くなると雑草の生育が早まるので、処理可能日数内で、早めに処理しましょう。

田植後日数



- ・上記薬剤の散布量(10a当り) ジャンボ剤: 10パック(250g)、フロアブル剤: 300cc、1キロ粒剤: 1kg
- ・ジャンボ剤やフロアブル剤は風の影響のない時に、5cm以上の深水にして散布しましょう。

## 6. 溝掘り

～早めに溝掘りを実施する！～

- 田植後25日頃から溝掘りを実施する。
- 軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから溝を掘る。
- 溝の間隔は、3～5mに1本の目安とし、  
水口 ⇄ 溝 ⇄ 水尻は確実に連結する。



生産履歴の記帳! GAPの実践!

「安全・安心・高品質・美味しい山田米」 作業の度に忘れず記帳!!